

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770400428		
法人名	三協グループ株式会社		
事業所名	グループホーム 「やすらぎ」		
所在地	大阪府大阪市港区弁天5丁目14番3号		
自己評価作成日	2010年1月8日	評価結果市町村受理日	2010年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数(5名)のグループホームなので、全員の利用者様がお互いに思いやりも持ち合っており、まとまりも良く本当の家族の様に仲良く暮らされている。
近所に散歩に出かけた時などは気楽に地域の方々と挨拶できる。また、ピクニックや大阪城 動物園にも気軽に外出し易い環境が整っている。
イベント(地域の盆踊り、お祭り、小学校の運動会、やすらぎ祭)等 全員で楽しみ、思い出、笑顔を共有出来る様に事業所も実践している。
手作りのおやつや週2回の食事イベントも楽しみにされているひとつでもある。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2770400428&SCD=370
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自社ビルの2階部分がホームである。定員が6名と少人数であり、利用者と職員の間で家庭的な馴染みの関係が築かれている。利用者の尊厳を重んじる介護計画により、利用者は楽しみごとや家事の役割も担い、その人らしいペースで生活を営んでいる。外出や外食はストレス発散、五感刺激を得られる好機ととらえて支援している。健康管理も適切に行われている。運営推進会議や地域の行事参加等で地域との交流も図られ、地域の認知症への関心・理解も深まっている。開設から7年の豊富な経験を基に、1階に併設のデイサービス、近隣の系列グループホームと連携して、地域に根ざした福祉サービスの拠点となるべく努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成22年1月15日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在掲げている事業所の理念に、地域の一員として地域との連携に努める介護の実現を目指すという表現を入れている。朝礼時に理念を唱和している。	利用者の尊厳・自己決定・安全を守り、地域生活の継続支援を目指した「理念」を大切にしている。朝礼時や職員会議で、理念に立ち戻って話し合い、具体的ケアのあり方について意見の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の神社の夏祭り、初詣、盆踊り、運動会等地域の行事に参加、スーパーへのかいもの、喫茶店に行くなど近隣の付き合いを行っている。	利用者は町会に加入し、地域の行事・催事(初詣、夏祭り、盆踊り、運動会、夜警)に参加している。日常の散歩や買い物を通じて近隣の人々と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月町内会会議に参加を行い地域の方々と情報の交換をし、共有し夜警にも参加交流をふかめる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2カ月に1度、地域包括支援センター担当者や、地域の役員の方々、家族、ホームの関係者、福祉センター関係者とホーム報告、行事報告等意見交換し、感染症認知症の理解を深めている。	地域包括支援センター、町会、社会福祉協議会、女性会、福祉センター、家族会から出席を得て、2ヶ月に1回、会議を開催している。内容は現状報告、行事案内等であり、意見も聞ける双方向的会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	成年後見人制度利用後相談や地域の方々に向けての、感染予防対策の講演を依頼して実行している。	行政に利用者の成年後見制度の利用手続きを依頼し、引き続き相談に出向いている。地域に向けた感染予防対策の講演を依頼した結果、運営推進会議で開講できた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行わず、状態に応じて見守り等で対応している。	玄関外の階段が急角度なので安全のため、玄関は施錠している。鍵をかけることの弊害は職員全員が理解しており、外へ出やすい雰囲気作りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加し、スタッフ全員が勉強会をして、防止に努めている。入居者様の話に細かく傾聴し状況判断に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内にも制度活用支援が必要な方がおられた為制度を活用、研修など積極的に参加勉強に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点には納得されるまで十分な説明を行っている。解約時にはご家族様に安心、納得して頂ける様、保健、福祉機関等と連携して、円滑な退居の為に必要な援助を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、入居者様のご家族の方にも出席して頂き、どの様なことも発言して頂き出席者全員と意見、苦情交換の機会を設けている。	苦情受付箱、苦情相談受付窓口、家族会、運営推進会議等において、家族の意見、不満、苦情を聞く機会を設けている。家族の意見等はファイルし、会議で検討して結果を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は、管理者同席のもと職員と個人面談を実施、更に専門家に助言を求め、管理者・職員は、月に1回以上ミーティングを開き、意見を反映させている。運営者と管理者による会議も1回開催してる。	代表者が管理者同席で行う職員との個人面談や、管理者が開催する会議の席で、職員は運営に関する提案や意見を述べる事ができる。これらは、会議で吟味し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年3月に人事評価及び実績を反映し、人事評価マトリックス、成果記入表、人事評価フォロー表を用い面談開示を行い各自のケアに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	意欲のある職員が平等に研修参加できるように計画している。受講した職員は、内部研修で報告を行い知識共有を図っている。職員の自己評価を毎月行い職員のレベル向上に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	港区や、大阪市ネットワークとの交流で情報交換をし、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からの訴え、要望にできるだけ添えるように努め、納得して頂けるよう十分な説明をさせて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームの雰囲気理解と入居されている方との会話等、その上でご家族のニーズに見合った対応と良くご家族のお話を聞かせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様のニーズに合わせた必要な支援を見極めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の生活歴、趣味などを充分把握した上で尊重、尊厳を持ち、機会を見つけて力を発揮して賞っている。その中で職員が学んでいる場合もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1ヶ月に一度、きめ細かい近況報告の日誌や写真などを送付し、面会時はご家族や自然体にリビングに集まれる様に日頃の情報交換やニーズの認識を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様の日常生活の様子を通信でお知らせすると共にご家族やご友人に参加して頂きやすいプログラムや行事を企画し、馴染みの深い関係を深めたり確認して頂いている。	利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、墓参りや孫の結婚式列席など、外出の機会を支援し、要請があれば、職員が同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が相互理解できるように、又、孤立者が出来ないようにするために職員が場面転換を図ったり雰囲気作りや一新を図るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了となった場合でもご相談が有れば、お役に立つことができるよう介護サマリーを作成し保管している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の思いや話を傾聴し、生活をともにする中で、行動や周辺症状への理解を深め、本人の希望や、意向の把握に努め、利用者本位の居心地良い暮らし方を大切にしている。	職員は日々のかかわりの中で声をかけ、利用者の話を聞き、要望や意向の把握に努めている。また、一人ひとりの行動や表情から利用者の不安や思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報把握に努め、その上で入居後の生活行動の観察、また積極的にコミュニケーションをとり、ご家族の話や生活歴の情報を得るように信頼関係を築くように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事量、水分摂取量、排泄回数、体重変化、バイタルサイン等で毎日の心身状態を把握し、個人の病歴、禁忌事項との摺り合わせを怠らない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の現在の生活情報を十分に提供した上でキーパーソンの方と話し合いの時間を持ってケアプランの見直しに努めている。職員が閲覧後捺印し情報を共有している。	利用者及び家族から思いや意見を聞き、職員全員で意見交換し、管理者、計画作成担当者を中心にアセスメント・モニタリング・会議を経て、介護計画の作成・見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に記録もれのないように注意をし、申し送りにより全職員が情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域のボランティア利用や新たな資源の開発を模索している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方もメンバー構成されている運営推進会議で話し合いを持って、敬老会やその他イベントの参加等協力して頂きながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される前によく相談し、納得頂ければ当ホームの内科往診医をご利用頂いている。(2回/月)	同意により、ホームの協力医(内科)による月2回の往診での医療管理が行われている。他科への受診や入院が必要な場合は本人や家族の希望に応じて対応している。必要に応じて、受診のつきそいも行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同グループ内に常勤の看護師が従事している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関より入院時の利用者様に関する情報交換、サマリーは、細かく行われ、ご本人ご家族医院、グループホームの意向が円滑に活かされている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族及び利用者様に重度化した時の対応を説明している。また、入居後、体調の変化が有った場合、かかりつけ医師に相談の上、予見出来る重度化、その際の対応に付いて、ご家族様、ご本人の意向に添える様に対応している。	重度化や体調急変時には、かかりつけ医の指示のもとに家族と話し合いを行い、対応について説明して納得を得ている。入居時における説明は、専ら「契約書」の内容を確認することとどまっている。	ホームでの看取り介護は、現状では困難である。その状況もふまえて、入居時や状態変化時に関係者で方針を共有して、対応する仕組み(指針・確認書)をつくることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	自己発生時は直ちに医師に判断を仰ぎ早急に対応を行っている。 夜間時は全職員が初期対応を学び、又、手順を記載したマニュアルは全職員がわかる場所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て消防署員立会い指導の下、実施訓練を行い、避難経路、通報の手順、誘導の注意点等を確認。自主訓練も行い災害時の対策をはかる。	消防署の指導、協力を得て、通報訓練・避難訓練を実施している。他に、消火器を用いた自主訓練も実施している。地域と共同の防災訓練はまだ実施していない。	運営推進会議等を通じて、地域の方々との災害時協力体制構築を進めることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を尊重し、決してプライドを傷つけるような対応をしないように心掛けている。また、個人情報関連の研修を年1回受講している。	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重し、言葉遣いや態度で利用者の誇りを傷つけないよう配慮している。個人情報に関する文書・記録等は鍵つき書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様とコミュニケーションを多くとり、選んでいただけることを心掛け、本人の決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己のペースで過ごしていただく事を優先し、共同生活上の調和を図りながらゆとりのある日常生活を過ごして頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度の訪問理美容を利用し、整容に努めている。服装について、本人の好みを尊重して支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お米研ぎや野菜の下ごしらえ(加熱するもの)、盛り付け等、利用者様と職員と一緒に食事の準備をしている。	業者による配食を通常利用し、週2回は好みの料理を利用者と一緒に手作りしている。職員は利用者と同じ料理を食べ、楽しく会話を交わしながら、食事介助と食事の進み具合に気を配り、完食できるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々人の体調に合わせての刻み食等の対応や、好みに合わせて飲み物の種類や冷温を工夫して、水分の確保を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々人の能力に合わせて、介助を行い、食べ残しや歯間カス、舌苔の除去を行い、口腔内の清潔保持を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、時間誘導や声掛けを行っている。	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部を温めたり、マッサージを行い運動を取り入れ腸内運動を促し自力排便が出来るよう支援している。消化し難い食べ物はキザミ食等で工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則、曜日対応とするが、体調により柔軟に対応している。入浴剤の使用や、脱衣室、浴室の温度管理を行っている。必要な方には浴槽内に椅子を設置し入浴し易い工夫をしている。	1階のデイサービスの浴室の利用(月、水、金)と、2階の浴室の利用(火、木、土)に分けて、少なくとも週3回の入浴を促している。ゆったりと入浴を楽しめるよう入浴剤を使用し、希望によりシャワー、足浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時刻1時間位前に室温調整を行う。テレビは個々の習慣で自主的に21時頃消される。消されてない自室は安眠確認し、消すこととしている。20時頃のリビングのテレビは、消音にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み忘れや服薬ミスを防ぐ為、服用していただく時に氏名・日付・朝昼夕眠前を声を出して確認し、内服チェック表に押印している。また、発疹・発熱、胃腸障害、ふらつき、のどの渇き、眠気などの副作用に注意する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事、洗濯、掃除、植木の水やり等出来ることを役割分担して頂き生活に張り合いを持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や個人の体調に合わせて合同や個別で外出を支援している。又家族との連携を図り公共機関を利用しての外出を支援している。	一人ひとりの希望に応じて、日常的に、近隣へ散歩や買い物に出かけている。楽しみの花見や外食等は、家族と協力しながら併設のデイサービスの車や電車を利用して出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何人かの入居者様は個人でお金を持っておられるが、お金を所持されていない入居者様と外出した際は、立替支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様に年賀状などを出していただけるように支援している。又、電話をかけて頂ける様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出やホーム内の行事等の写真を飾っている。又、貼り絵などの装飾により季節感を出し、寛いだ雰囲気、楽しい空間の演出を施している。	居間は採光が良く、壁には行事の写真、利用者が制作した絵・習字・貼り絵・手芸品を飾り、明るく楽しく馴染める雰囲気である。居間や廊下にはソファやベンチ、観葉植物を置き居心地よい空間作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	十分な空間とはいえないが、廊下部分にベンチシートを設置し、居室、リビング以外で過ごすことの出来る空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れたタンス、家具、写真等を配置し、自宅に近い環境を演出している。	使い慣れたタンス、鏡台、テレビや仏壇などを持ち込み、家族写真、手工芸品など、好みの品を飾って、居心地よく暮らせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂、居室の入り口に写真や名前をつけ掲示している。洗面所トイレに照明を点け分かり易くしている。		